

平成13年2月27日

豊橋技術科学大学長 殿

審査委員長 磯田定先 

論文審査及び最終試験の結果報告書

このことについて、下記の結果を得ましたので報告いたします。
記

学位申請者	大竹 清敬	学籍番号	第 943708 号
申請学位	博士(工学)	専攻名	電子・情報工学専攻
論文題目	Studies on Relevant Document Retrieval and Summarization (関連文書検索とその自動要約に関する研究)		
公開審査会の日	平成 13 年 2 月 26日		
論文審査の期間	平成 13年 1月 25日~平成 13年 2月 26日	論文審査の結果	合格
最終試験の日	平成 13 年 2 月 26 日	最終試験の結果	合格

論文内容の要旨

本論文は、これからの高度情報化社会において人間の知的活動支援のために今後ますます重要になると考えられる情報検索および自動要約について述べている。情報検索に関しては、従来ほとんど考えられてこなかった索引語の単位の問題に対して、名詞の接続を用いることの有効性を示している。また、自動要約研究において今後重要になっていくであろう複数文書に対する要約として複数記事要約を行っている。さらに、要約をはじめとする自然言語処理において重要な役割を果たす格フレームをコーパスから自動獲得することを検討している。

第1章では、研究の背景と目的を述べている。第2章では、名詞の接続に着目して、ある文書に関連する文書を検索する手法を提案し、従来の形態素を索引語の単位とする手法と比較し、評価している。第3章では、関連する複数の新聞記事をまとめて要約する手法を提案し、アンケートによって評価している。第4章では、自然言語処理において重要な役割を果たす格フレームをコーパスから自動獲得する手法を提案している。ここで提案した格フレームは、語順を考慮している点が特徴である。第5章では、格フレームをコーパスから自動獲得する際に問題となる名詞の多義性を統計的情報を用いることで解消する手法を提案している。最後に、第6章では、本研究の結論と今後の展望について述べている。

審査結果の要旨







計算機ならびにネットワークの急速な発展により、膨大な情報が分散して蓄積されるようになった現代情報化社会においては、その膨大な情報の中から必要な情報を求め、自らが抱える問題にすばやく対応しなければならない。そのために、情報検索および自動要約は必要不可欠な技術である。

本論文では、人間の知的活動を支援するための基礎的な研究を行っており、(1)ある文書を入力とし、その文書の関連文書を自動的に検索する手法を提案し、形態素のみを索引語の単位とする従来の手法と比較して提案手法の有効性を示した点、(2)複数の関連した新聞記事に対して記事の特徴を活かしたヒューリスティックスのみによる要約手法を提案した点、さらに、より自然な要約生成のために(3)従来ほとんど考慮されてこなかった語順を考慮して格フレームをコーパスから自動獲得する手法を提案した点、ならびに(4)格要素列獲得における実用的な名詞の多義性解消手法を提案した点、で学術上意義深い成果を得た。

これらの研究成果は、今後の高度情報化社会において基礎となる技術であり、かつ、実験的システムを構築し、有効性を検証したものであり、工学的な応用性、発展性からも高く評価できる。

以上により、本論文は博士(工学)の学位論文に相当するものと判定した。

審査委員

磯田定先  中川聖一  梅村恭司 
宇津弓 武仁  増山 敏夫   印

(注) 論文審査の結果及び最終試験の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。